

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所 属 現代社会学部

現代社会学科

氏 名 合澤 浩之

作成日 2025 年 6 月 14 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。

大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

- * ここは教育活動について何をやっているかの概略を示します。
- * 本学において、現在または過去数年間に担当した科目（科目名、必修 or 選択、学年等）と教育活動（ゼミ・CA 担当、学科等での役割など）を列記します。
※今回は初回であるため、今年度担当分について記載してください。
- * 果たしている自身の教育上の責務について記述します。

令和 7（2025）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

記載例）

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第 1 Q 等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
商学入門	専門科目（現代社会学科）	1～4 年	
マーケティング論Ⅰ	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	
中小企業論	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	
大学入門ゼミナールⅠ	基盤教育科目	1 年	
専門ゼミナールⅠ	専門科目（現代社会学科）	3 年	
専門ゼミナールⅢ	専門科目（現代社会学科）	4 年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
マーケティング入門	専門科目（現代社会学科）	1～4 年	
マーケティング論Ⅱ	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	
サービスマーケティング	専門科目（現代社会学科）	3～4 年	
業界研究	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	
導入ゼミナールⅡ	専門科目（現代社会学科）	2 年	
専門ゼミナールⅡ	専門科目（現代社会学科）	3 年	
専門ゼミナールⅣ	専門科目（現代社会学科）	4 年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

2. 理念

- * 自身の教育に対する理念（教育者としての自覚、大切にしていること、学生への期待や思いなど）を記述します。
- * 建学の精神、教育上の使命・目的、3つのポリシー（特にディプロマ・ポリシー）を踏まえてご記載ください。

5～10行以内でご記載ください

企業での実務経験を持つ教員として、実践的職業人の育成に重点を置いています。

ディプロマ・ポリシーとの関連では、講義では、DP1-2：経済・経営の分野での専門的な知識を修得している、レベル3：修得した専門的知識を活用して、様々な社会の現象を説明したり問題点を指摘できる、ゼミでは、DP4-1 新たな社会の課題を発見し解決するための考察力、問題解決力を修得している、レベル2：社会の課題を論理的に分析し課題を引き起こしている原因を究明することができる、を目標に教育を実践しています。具体的には、講義では、実際の企業の事例を使った演習を通じて、講義で学んだ専門知識を企業事例に当てはめて理解し考察する力、ゼミでは、個人研究、グループ研究を通じて、経営・マーケティングに関する自分の関心のあるテーマを決めて、企業が直面する市場環境、競争環境にどのように対応し、どのような価値を市場・社会に提供しているのか、を考察する力を学生が修得することを期待しています。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

- * 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。
- * 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

記載例)

教育方針 1 時間を守ること（社会人基礎力）

工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。

工夫②：・・・

教育方針 2 自宅外学習習慣（予復習）を身につける

工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。

工夫②：予復習が習慣化するよう毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

教育方針 3 学習のアウトカムを出す

工夫①：・・・

工夫②：・・・

4. 成果と課題、今後の計画

- * 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- * 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

- 自走的・継続的英語学習と資格取得等（TOEIC、英検等）に繋げることができた
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（プロジェクト演習、英語スピーチコンテストなど）
- 英語学習と成果に関するデータを分析することができた。
- 英語カリキュラムに共通要素を取り入れることができた。
- ・・・

【課題と今後の展望】※今後、取り組みたい内容などでも結構です

- ・・・・・・・・・・
- ・・・・・・・・・・

- * 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所 属 現代社会学部

現代社会学科

氏 名 朝西知徳

作成日 2025 年 6 月 9 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。

大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第1Q等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
健康スポーツ論	専門科目（現代社会学科）	2～4年	
コーチング論	専門科目（現代社会学科）	3～4年	
専門スポーツ C	専門科目（現代社会学科）	2～4年	
大学入門ゼミナールⅠ	基盤教育科目	1年	
専門ゼミナールⅠ	専門教育科目	3年	
専門ゼミナールⅢ	専門教育科目	4年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
スポーツ実習 B	基盤教育科目	1～4年	

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
スポーツ心理学	専門科目（現代社会学科）	1～4年	
専門スポーツ D	専門科目（現代社会学科）	2～4年	
大学入門ゼミナールⅠ	基盤教育科目	1年	
専門ゼミナールⅡ	専門教育科目	3年	
専門ゼミナールⅣ	専門教育科目	4年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
スポーツ実習 B	基盤教育科目	1～4年	

2. 理念

私が主に担当するスポーツコースの学生は、高校までスポーツを中心に生活していた者が多く、学習習慣の身につけていない場合がほとんどです。よって、入学時は 90 分間の授業に集中して臨むことが困難な状況です。

授業では、遅刻・飲食・居眠り・私語・不必要なスマートフォンの使用を禁じ、学生が授業に集中できる環境づくりを目指しています。また、新聞記事・小説・随筆・評論・映画（DVD）等の教材を用いて、学生が興味を引く内容を多く提供するとともに思考する時間を増やし、学生が卒業後に常識ある立派な社会人となってもらえるよう努力しています。

全学的ディプロマ・ポリシーとの関係では、「スポーツ心理学」「健康スポーツ論」などの専門教育科目において、DP1-2「スポーツ分野での専門的な知識の修得」に力を注いでいます。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

- * 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。
- * 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

記載例)

教育方針 1 時間を守ること（社会人基礎力）

工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。

工夫②：・・・

教育方針 2 自宅外学習習慣（予復習）を身につける

工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。

工夫②：予復習が習慣化するよう毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

教育方針 3 学習のアウトカムを出す

工夫①：・・・

工夫②：・・・

4. 成果と課題、今後の計画

【成果】

- 自走的・継続的英語学習と資格取得等（TOEIC、英検等）に繋げることができた
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（プロジェクト演習、英語スピーチコンテストなど）
- 英語学習と成果に関するデータを分析することができた。
- 英語カリキュラムに共通要素を取り入れることができた。
- ・・・

【課題と今後の展望】※今後、取り組みたい内容などでも結構です

○

○

＊ 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

＊ TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。

＊ 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所 属 現代社会学部

現代社会学科

氏 名 池田 玲子

作成日 2025 年 6 月 13 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。

大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

令和7（2025）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第1Q等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
大学入門ゼミナールⅠ	大学導入分野	1年	
生産管理	専門科目（現代社会学科）	2～4年	
経営学入門	専門科目（現代社会学科）	1～4年	
人的資源管理論	専門科目（現代社会学科）	3～4年	
専門ゼミナールⅠ	専門科目（現代社会学科）	3年	
専門ゼミナールⅢ	専門科目（現代社会学科）	4年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
導入ゼミナールⅡ	専門科目（現代社会学科）	2年	
専門ゼミナールⅡ	専門科目（現代社会学科）	3年	
専門ゼミナールⅣ	専門科目（現代社会学科）	4年	
経営管理論	専門科目（現代社会学科）	2年～4年	
経営組織論	専門科目（現代社会学科）	3年～4年	
国際経営論	専門科目（現代社会学科）	3年～4年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
キャリアサポート演習 B2	キャリア形成分野	1～4年	

2. 理念

--

5～10 行以内でご記載ください

近年、基礎学力・日本語能力に何らかの課題があり、また、個人的または生活上の課題から集合教育における学習技術を獲得してこなかった学生が教室の大半を占めています。そのような学生に、経営学の知識獲得を用いて、学校での学びに対する信頼を獲得すること（＝学校での学習が現実の社会で必要であること、さらに有用であること）と学ぶ技術の獲得を目的としています。さらに「獲得してこれなかった」学生について大人数講義でも個別に対応できるよう授業運営を心がけています。企業を対象とする授業やゼミを通じて学生の就職活動とキャリアデザインに貢献することを目指しています。具体的には「DP1-1（多様性への理解）人間、社会、文化、地域の多様性についての基本知識を修得し、幅広い視野と柔軟な感性で「もの」「こと」を受けとめ、理解する力を修得している」DP4-2（生涯学習力）多様な学修経験を総合し、自らのキャリアをデザインする力、生涯にわたって主体的に学び続ける創造的思考力を有している」の育成に尽力しています。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

- * 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。
- * 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

4. 成果と課題、今後の計画

- * 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- * 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

- * 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所 属 現代社会学部

現代社会学科

氏 名 川田敦相

作成日 2025 年 6 月 10 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。

大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

令和 7（2025）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
ロジスティクスマネジメント論	専門教育科目	2～4 年	
生活と経済	基盤教育科目	1～4 年	
国際経済学	専門教育科目	3～4 年	
アジア経済論Ⅰ	専門教育科目	2～4 年	
大学入門ゼミナールⅠ	基盤教育科目	1 年	
導入ゼミナールⅠ	専門教育科目	2 年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
交通サービス論	専門教育科目	2～4 年	
生活と経済	基盤教育科目	1～4 年	
経済学入門	専門教育科目	2～4 年	
アジア経済論Ⅱ	専門教育科目	2～4 年	
大学入門ゼミナールⅡ	基盤教育科目	1 年	
導入ゼミナールⅡ	専門教育科目	2 年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

2. 理念

本学には入学前まで学習習慣を十分身に付けてこなかった者、優れた能力を持ちながらも十分発揮してこなかった者、さらには、外国人留学生など様々なレベルの学生が集っています。そのような学生一人一人に対し、日本国内はもとより国際社会でも通用する一人前の「実践的職業人」として育成する必要性を深く認識しています。担当講義では、“理論的枠組み”のみならず“現実社会の動き”についても理解することのできる“役立つ”授業に努めています。卒業後、社会人として必要とされる「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の礎を築くよう心掛けています。

現代社会学科ディプロマ・ポリシーとの関係では、基盤教育科目では DP1-1 「現代社会の課題を理解するための基本的な知識の修得」、専門科目では DP1-2 「経済・経営分野での専門的な知識の修得」に重点を置きつつも、DP2-1 「現代社会で実践的な職業人として活躍するためのコミュニケーション能力、論理的思考力、数量的スキルの修得」等も踏まえた教育に取り組んでいます。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

* 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。

* 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

記載例)

教育方針 1 時間を守ること（社会人基礎力）

工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。

工夫②：・・・

教育方針 2 自宅外学習習慣（予復習）を身につける

工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。

工夫②：予復習が習慣化するように毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

教育方針 3 学習のアウトカムの出す

工夫①：・・・

工夫②：・・・

4. 成果と課題、今後の計画

* 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。

* 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。

* ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。

* 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

- 自走的・継続的英語学習と資格取得等（TOEIC、英検等）に繋げることができた
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（プロジェクト演習、英語スピーチコンテストなど）
- 英語学習と成果に関するデータを分析することができた。
- 英語カリキュラムに共通要素を取り入れることができた。
-

【課題と今後の展望】※今後、取り組みたい内容などでも結構です

-
-

＊ 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

- ＊ TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- ＊ 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所 属 現代社会学部

現代社会学科

氏 名 杉原 充志

作成日 2025 年 6 月 14 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。

大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

(1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。

(2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。

(3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

令和 7（2025）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第 1 Q 等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
社会と法律	基盤教育科目	1～4 年	
法律学Ⅰ	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	
行政法	専門科目（現代社会学科）	3～4 年	
導入ゼミナールⅠ	専門科目（現代社会学科）	2 年	
専門ゼミナールⅠ	専門科目（現代社会学科）	3 年	
専門ゼミナールⅢ	専門科目（現代社会学科）	4 年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
日本国憲法	基盤教育科目	1～4 年	
法律学Ⅱ	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	
地域行政論	専門科目（現代社会学科）	3～4 年	
地域研究 C	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	
専門ゼミナールⅡ	専門科目（現代社会学科）	3 年	
専門ゼミナールⅣ	専門科目（現代社会学科）	4 年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
キャリアサポート演習 A 2（公務員入門）	基盤教育科目	1～4 年	

2. 理念

5～10行以内でご記載ください

1. 法律系科目を担当し、公務員養成にも力を入れる立場から、私が自身の究極の教育目標としているのは真の「主権者」の育成である。
2. ディプロマ・ポリシーとの関係では、専門科目は「現代社会の課題を理解するための基本的な知識を修得」したうえで、その基礎知識を用いて、「社会の課題を具体的に説明する」ことができようになること。また、基盤教育科目においては、「人間、社会、文化、地域の多様性についての基本知識を修得」したうえで、世の中に「多様な価値観があることを理解し、幅広い視野と柔軟な感性で現代社会の様々な事象を受けとめ、理解する」ことができるようになること。
3. 個々の授業においては、一人一人の学生が法律の世界を通して生身の人間の生き様（弱さ）を知り、そのうえで法的なもの（リーガルマインド）を身につけることができるように、「人間学」としての法律学と「スキル」としての法律学の両立を心掛け、日々の教育にあたっている。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

* 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。

* 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

記載例)

教育方針 1 時間を守ること（社会人基礎力）

工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。

工夫②：・・・

教育方針 2 自宅外学習習慣（予復習）を身につける

工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。

工夫②：予復習が習慣化するよう毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

教育方針 3 学習のアウトカムの出す

工夫①：・・・

工夫②：・・・

4. 成果と課題、今後の計画

- * 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- * 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

- 自走的・継続的英語学習と資格取得等（TOEIC、英検等）に繋げることができた
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（プロジェクト演習、英語スピーチコンテストなど）
- 英語学習と成果に関するデータを分析することができた。
- 英語カリキュラムに共通要素を取り入れることができた。
-

【課題と今後の展望】※今後、取り組みたい内容などでも結構です

-
-

- * 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所 属 現代社会学部

現代社会学科

氏 名 棚山 研

作成日 2025 年 6 月 17 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。
大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

- * ここは教育活動について何をやっているかの概略を示します。
- * 本学において、現在または過去数年間に担当した科目（科目名、必修 or 選択、学年等）と教育活動（ゼミ・CA 担当、学科等での役割など）を列記します。
※今回は初回であるため、今年度担当分について記載してください。
- * 果たしている自身の教育上の責務について記述します。

令和 7（2025）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第 1 Q 等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
社会学Ⅰ	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	
スポーツ文化論	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	
社会調査論	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	
スポーツマネジメント論	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	
導入ゼミナールⅠ	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	
専門ゼミナールⅠ	専門科目（現代社会学科）	3～4 年	
専門ゼミナールⅢ	専門科目（現代社会学科）	4 年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
社会学Ⅱ	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	
スポーツ社会学	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	
地域とスポーツ	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	
大学入門ゼミナールⅡ	基盤教育科目	1～4 年	
専門ゼミナールⅡ	専門科目（現代社会学科）	3～4 年	
専門ゼミナールⅣ	専門科目（現代社会学科）	4 年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

2. 理念

- * 自身の教育に対する理念（教育者としての自覚、大切にしていること、学生への期待や思いなど）を記述します。

* 建学の精神、教育上の使命・目的、3つのポリシー（特にディプロマ・ポリシー）を踏まえてご記載ください。 何よりも授業内容が「伝わる」ことを心がけている。そのために学生の共感が得られる教材・表現の提供に努めている。あと、復習できるように出来るだけ手元に残る資料を提供できるよう努めている。 また、ゼミではこちらからテーマを押し付けるより、「自然な」問題意識の成長を促している。 スポーツ系の授業では、「ひとはなぜスポーツをする（しない）のか?」、「文化としてのスポーツの意味」について、歴史的社会的背景も踏まえて説明しているが、本学の学生には難解かとも思っている。
--

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

* 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。 * 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。
記載例) 教育方針 1 時間を守ること（社会人基礎力） 工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。 工夫②：・・・ 教育方針 2 自宅外学習習慣（予復習）を身につける 工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。 工夫②：予復習が習慣化するよう毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。 教育方針 3 学習のアウトカムを出す 工夫①：・・・ 工夫②：・・・

4. 成果と課題、今後の計画

* 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。 * 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。

- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

- ・過去、専門ゼミ生で卒業論文を書き上げたのは2名であるが、ともに現社学会学生賞を受賞した。
- ・

【課題と今後の展望】※今後、取り組みたい内容などでも結構です

- ・スポーツ系の授業では「ひとはなぜスポーツをするのか?」、という問いに対する答えを深めていくような授業を、さらに模索していきたい。

- * 表紙を含め、全体として、3～5ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所 属 現代社会学部

現代社会学科

氏 名 日向 浩幸

作成日 2025 年 6 月 12 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。
大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

教育、研究、大学運営を通じて社会に貢献します。学習の個人差や学生のレベルに合わせた授業を行います。学会参加や発表、学会誌や専門書などの執筆、学会役員の職務を全うします。現代社会学科長や各種学内委員会委員などの役割を果たします。大学間の連携協力による教育・研究・社会貢献機能の充実・強化を図ります。

令和7（2025）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第1Q等をご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
社会と経営	基盤教育科目	1～4 年	
ブランド論	専門科目（現代社会学科）	3～4 年	
導入ゼミナールⅠ	専門演習	2 年	
専門ゼミナールⅠ	専門演習	3 年	
専門ゼミナールⅢ	専門演習	4 年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
大学間連携講座 A	学外研修	1～4 年	関空・泉州・南大阪地域学

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
ビジネスモデル論	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	
経営史	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	
経営倫理	専門科目（現代社会学科）	3～4 年	
大学入門ゼミナールⅡ	基盤教育科目	1 年	
専門ゼミナールⅡ	専門演習	3 年	
専門ゼミナールⅣ	専門演習	4 年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

2. 理念

理論と実践の連結を促す教育を行います。「何ができるようになるのか」の観点で整理し、その育成のために「何を学ぶのか」、その内容を「どのように学ぶのか」を計画的に実践し、「何が見についたのか」を評価で見取り、さらに改善・向上を図ります。「何ができるようになるのか」目指す資質・能力の策定に始まり、内容の選定を行い、方法により実践し、その効果を検証し、創意工夫を重ねます。全学的ディプロマ・ポリシーとの関係では、大学間連携講座は社会人基礎力の養成を図ることを目的として、企画力・プレゼンテーション力・チームワーク力等を伸ばす貴重な機会となっており、DP4-1（課題解決力）「学内外の能動的学修経験を通して、課題を発見する力、課題解決のために必要な情報を収集し分析する力、課題解決に向けた行動力を身につけている」の育成、その他の科目では DP4-2（生涯学習力）「多様な学修経験を総合し、自らのキャリアをデザインする力、生涯にわたって主体的に学び続ける創造的思考力を有している」の育成に力点を置いています。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所 属 現代社会学部

現代社会学科

氏 名 森本和義

作成日 2025 年 6 月 10 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。
大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

- * ここは教育活動について何をやっているかの概略を示します。
- * 本学において、現在または過去数年間に担当した科目（科目名、必修 or 選択、学年等）と教育活動（ゼミ・CA 担当、学科等での役割など）を列記します。
※今回は初回であるため、今年度担当分について記載してください。
- * 果たしている自身の教育上の責務について記述します。

令和 7（2025）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第 1 Q 等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
会計学Ⅰ	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	第 1 Q
会計学Ⅱ	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	第 2 Q
専門ゼミナールⅠ	専門科目（現代社会学科）	3 年	
専門ゼミナールⅢ	専門科目（現代社会学科）	4 年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
簿記入門	専門科目（現代社会学科）	1～4 年	
商業簿記Ⅰ	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	
専門ゼミナールⅡ	専門科目（現代社会学科）	3 年	
専門ゼミナールⅣ	専門科目（現代社会学科）	4 年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

2. 理念

- * 自身の教育に対する理念（教育者としての自覚、大切にしていること、学生への期待や思いなど）を記述します。

* 建学の精神、教育上の使命・目的、3つのポリシー（特にディプロマ・ポリシー）を踏まえてご記載ください。 5～10行以内でご記載ください 羽衣国際大学の建学の精神、すなわち「愛真教育」が、私の教育の基本理念であります。学生諸君には、真理の探究と他者への愛を融合させた愛真精神を理解し、修得してほしいと考えています。 現代社会学科のディプロマ・ポリシーDP2-1（汎用的能力）に明記されていますが、簿記・会計学の学修を通じて、現代社会で実践的職業人として活躍するための論理的思考力や数量的スキルを修得してほしいと考えています。 全学的ディプロマ・ポリシーとの関係では、DP4-1（課題解決力）「課題を発見する力、課題解決のために必要な情報を収集し分析する力、課題解決に向けた行動力」の育成に教育上の力点を置いています。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

* 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。 * 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。
教育方針 1 わかりやすい授業の提供 工夫①：簿記の授業では、毎回自作のプリントを配付しています。 工夫②：見やすいパワーポイントのスライドを用意しています。 教育方針 2 実践的職業人の養成 工夫①：日商簿記検定試験の問題を授業で取り扱っています。 工夫②：日商簿記検定試験への挑戦を促しています。 教育方針 3 プレゼンテーション能力と文章作成能力の養成 工夫①：ゼミナールでは、個別に添削指導を行っています。 工夫②：

4. 成果と課題、今後の計画

* 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。 * 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。 * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。

* 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

- 少数ではあるが、日商簿記検定試験（3級と2級）の合格者が現れています。
- ゼミナールでは、プレゼンテーション能力や文章作成能力が養成できています。

【課題と今後の展望】 ※今後、取り組みたい内容などでも結構です

- 人前で発表できない学生が増えているので、発表以外の評価指標でも成績評価を行う必要性を感じています。

* 表紙を含め、全体として、3～5ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所 属 現代社会学部

現代社会学科

氏 名 吉村 宗隆

作成日 2025 年 6 月 1 6 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることにつながります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。

大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

令和7（2025）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第1Q等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
生活と経済	基盤教育科目	1～4 年	
経済学Ⅱ	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	
現代社会学特別講義 C	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	
大学入門ゼミナールⅠ	基盤教育科目	1～4 年	
導入ゼミナールⅠ	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	
専門ゼミナールⅢ	専門科目（現代社会学科）	4 年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
生活と経済	基盤教育科目	1～4 年	
経済学Ⅰ	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	
経済学入門	専門科目（現代社会学科）	1～4 年	
大学入門ゼミナールⅡ	基盤教育科目	1～4 年	
導入ゼミナールⅡ	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	
専門ゼミナールⅣ	専門科目（現代社会学科）	4 年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

2. 理念

本学に入学してくる学生の学習経験、バックグラウンド等を十分に考慮しつつ、教育目標と内容を定め指導にあたるよう心掛けている。

担当科目に関しては、講義科目か演習かという点と、基盤教育科目か専門教育科目かという観点から、その内容につき区別している。講義科目については、一定の範囲・レベルの修得すべき内容について、可能な限り平易に説明するよう努めている。他方、演習科目については、学生の自主的、自律的学修を進めるよう専門的内容の解説に加え、課題レポートの提出を適宜求めている。また基盤教育科目では主に1年生が対象となるため、まず当該科目の内容について興味関心を引く内容を中心に講義を組み立てている。それと同時に入門科目は専門科目の橋渡しとなるよう、専門科目の重要概念について紹介することとしている。専門教育科目については、理論経済学関連科目(ミクロ、マクロ等)は標準的な学修内容があるため、それに沿ったテキストを使用しつつ一定の理解に到達するよう指導している。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

* 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。

* 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

記載例)

教育方針 1 時間を守ること (社会人基礎力)

工夫①: 初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。

工夫②:

教育方針 2 自宅外学習習慣 (予復習) を身につける

工夫①: 授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。

工夫②: 予復習が習慣化するように毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

教育方針 3 学習のアウトカムを出す

工夫①:

工夫②:

4. 成果と課題、今後の計画

* 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。

* 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。

* ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。

* 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

- 自走的・継続的英語学習と資格取得等（TOEIC、英検等）に繋げることができた
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（プロジェクト演習、英語スピーチコンテストなど）
- 英語学習と成果に関するデータを分析することができた。
- 英語カリキュラムに共通要素を取り入れることができた。
- ・・・

【課題と今後の展望】※今後、取り組みたい内容などでも結構です

- ・・・・・・・・・・
- ・・・・・・・・・・

* 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所 属 現代社会学部

現代社会学科

氏 名 岡崎 拓

作成日 2025 年 6 月 14 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることにつながります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。

大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

- * ここは教育活動について何をやっているかの概略を示します。
- * 本学において、現在または過去数年間に担当した科目（科目名、必修 or 選択、学年等）と教育活動（ゼミ・CA 担当、学科等での役割など）を列記します。
※今回は初回であるため、今年度担当分について記載してください。
- * 果たしている自身の教育上の責務について記述します。

令和 7（2025）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第 1 Q 等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
日本経済入門	専門科目（現代社会学科）	1～4 年	
経済学Ⅰ	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	
企業経済学	専門科目（現代社会学科）	3～4 年	
財政学	専門科目（現代社会学科）	3～4 年	
大学入門ゼミナールⅠ	専門科目（現代社会学科）	1 年	
専門ゼミナールⅠ	専門科目（現代社会学科）	3 年	
専門ゼミナールⅢ	専門科目（現代社会学科）	4 年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
経済学Ⅱ	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	
ヨーロッパ・アメリカ 経済論	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	
公共経済学	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	
導入ゼミナールⅡ	専門科目（現代社会学科）	2 年	
専門ゼミナールⅡ	専門科目（現代社会学科）	3 年	
専門ゼミナールⅣ	専門科目（現代社会学科）	4 年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

2. 理念

- * 自身の教育に対する理念（教育者としての自覚、大切にしていること、学生への期待や思いなど）を記述します。
- * 建学の精神、教育上の使命・目的、3つのポリシー（特にディプロマ・ポリシー）を踏まえてご記載ください。

社会・経済動向を踏まえた経済・ビジネス教育を目指しております（学部 DP1-1,1-2）。経済学、経営学理論の理論の教授、理解促進と並行し、授業内で時事問題、進行中の経済事象、グローバル経済における諸問題を取り上げ、理論と現実世界とを結びつけ実学意識の醸成を行います（学科 DP4-1）。

また方法論として、積極的に映像資料、web 資料を活用し、資料収集の方法も享受するとともに、動画を用いた反転授業によるデジタル化、アクティブ・ラーニング実施にも取り組みます。ゼミなどでは、各学生の習熟度に合わせた指導と、モチベーション向上を意識したコミュニケーション、スキルトレーニングを重視します。これらについては、全学 DP3-3（協働力）「周囲の人と協調しながら自らの役割を果たし、協働して物事を進める力」および DP4-1（課題解決力）「学内外の能動的学修経験を通して、課題を発見する力、課題解決のために必要な情報を収集し分析する力、課題解決に向けた行動力」の養成につなげることを意識しています。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

- * 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。
- * 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

記載例)

教育方針 1 時間を守ること（社会人基礎力）

工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。

工夫②：・・・

教育方針 2 自宅外学習習慣（予復習）を身につける

工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。

工夫②：予復習が習慣化するよう毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

教育方針 3 学習のアウトカムを出す

工夫①：・・・

工夫②：・・・

4. 成果と課題、今後の計画

- * 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- * 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

- 自走的・継続的英語学習と資格取得等（TOEIC、英検等）に繋げることができた
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（プロジェクト演習、英語スピーチコンテストなど）
- 英語学習と成果に関するデータを分析することができた。
- 英語カリキュラムに共通要素を取り入れることができた。
-

【課題と今後の展望】※今後、取り組みたい内容などでも結構です

-
-

- * 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所 属 現代社会学部

現代社会学科

氏 名 喜多 努

作成日 2025 年 6 月 15 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。

大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

令和7（2025）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第1Q等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
スポーツリーダー論Ⅰ	専門科目（現代社会学科）	3～4年	
スポーツ実習B	基盤教育科目	1～4年	
大学スポーツ基礎論	専門科目（競技スポーツ副専攻）	1年	
専門スポーツA	専門科目（現代社会学科）	2～4年	
専門ゼミナールⅠ	専門演習分野（現代社会学科）	3年	
専門ゼミナールⅢ	専門演習分野（現代社会学科）	4年	
大学入門ゼミナールⅠ	基盤教育科目	1年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
スポーツリーダー論Ⅱ	専門科目（現代社会学科）	3～4年	
スポーツ実習B	基盤教育科目	1～4年	
専門スポーツB	専門科目（現代社会学科）	2～4年	
専門ゼミナールⅡ	専門演習分野（現代社会学科）	3年	
専門ゼミナールⅣ	専門演習分野（現代社会学科）	4年	
導入ゼミナールⅡ	専門演習分野（現代社会学科）	2年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

2. 理念

--

スポーツコースが主担当であるが、他コースの学生との大きな差はなくさまざまな課題を持ちながら学生生活を送っている。1年時は高校と大学の学びの違いに気づき理解させるよう進めています。また自身に関係があり、興味のある事柄や過去の経験から学びを深めることに繋げ、現状のルールなどをうのみにするのではなく、その意味や課題などの状況を知り社会生活に繋げていけるようにしています。

大学における友人とのつながりや学外活動での知り合いを増やした場合のコミュニケーション能力やマナーなども将来的に社会人となる場合に必要のこととして理解を促し、実際の行動や姿勢に繋げて養った学び・知識を生かせることを目指しています。

授業においては全学的ディプロマ・ポリシーとの関係から専門的な教育科目のスポーツリーダー論や専門スポーツを通じ「専門的な知識の習得」を進め、今年度からの大学スポーツ基礎論においても、特にスポーツ学生の大学での学び方、ライフスキル、デュアルキャリアについての指導を強化し、より充実した学生アスリートとしての活動サポートを進めています。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

* 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。

* 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

記載例)

教育方針 1 時間を守ること（社会人基礎力）

工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。

工夫②：・・・

教育方針 2 自宅外学習習慣（予復習）を身につける

工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。

工夫②：予復習が習慣化するよう毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

教育方針 3 学習のアウトカムの出す

工夫①：・・・

工夫②：・・・

4. 成果と課題、今後の計画

* 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。

* 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。

- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

- 自走的・継続的英語学習と資格取得等（TOEIC、英検等）に繋げることができた
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（プロジェクト演習、英語スピーチコンテストなど）
- 英語学習と成果に関するデータを分析することができた。
- 英語カリキュラムに共通要素を取り入れることができた。
- ・・・

【課題と今後の展望】※今後、取り組みたい内容などでも結構です

- ・・・・・・・・・・
- ・・・・・・・・・・

- * 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所 属 現代社会学部

現代社会学科

氏 名 田渕宗孝

作成日 2025 年 6 月 11 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。

大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

- * ここは教育活動について何をやっているかの概略を示します。
- * 本学において、現在または過去数年間に担当した科目（科目名、必修 or 選択、学年等）と教育活動（ゼミ・CA 担当、学科等での役割など）を列記します。
※今回は初回であるため、今年度担当分について記載してください。
- * 果たしている自身の教育上の責務について記述します。

令和 7（2025）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

記載例)

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第 1 Q 等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
Communicative English IA	専門科目	1～4 年	第 1 Q
専門英語 II	専門科目	2～4 年	第 2Q
地域研究 A	専門科目	2～4 年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
Communicative English II B	専門科目	2～4 年	第 3Q
専門英語IV	専門科目	3～4 年	第 4Q
多文化共生論	専門科目	2～4 年	
現代社会学特別講義/ ヨーロッパ・アメリカ文化論	専門科目	2～4 年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

2. 理念

- * 自身の教育に対する理念（教育者としての自覚、大切にしていること、学生への期待や思いなど）を記述します。
- * 建学の精神、教育上の使命・目的、3つのポリシー（特にディプロマ・ポリシー）を踏まえてご記載ください。

5～10 行以内でご記載ください

インターネットで情報入手が容易になった世代の学生にあって、それは必ずしも知識の向上に結び付いていないのが現状である。正しい情報を正しく分析・解釈できるためには、それなりの訓練が必要であるが、そうした作業自体を厭い、表面的な情報を鵜呑みにしてしまう傾向をいかにして克服させるかを、本学における教育の目的としている。

現代社会学科のディプロマ・ポリシーとの関係では、語学科目およびゼミナールについては DP2-1 における「コミュニケーション能力」の向上を、そして講義系科目においては DP1-1「現代社会の課題を理解するための基本的な知識」および DP4-1 における「新たな社会の課題を発見し解決するための考察力」の育成を意識し、授業の組み立てを行っている。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

* 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。

* 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

記載例)

教育方針 1 時間を守ること (社会人基礎力)

工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。

工夫②：・・・

教育方針 2 自宅外学習習慣（予復習）を身につける

工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。

工夫②：予復習が習慣化するよう毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

教育方針 3 学習のアウトカムを出す

工夫①：・・・

工夫②：・・・

4. 成果と課題、今後の計画

* 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。

* 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。

* ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。

* 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

- 自走的・継続的英語学習と資格取得等（TOEIC、英検等）に繋げることができた
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（プロジェクト演習、英語スピーチコンテストなど）
- 英語学習と成果に関するデータを分析することができた。
- 英語カリキュラムに共通要素を取り入れることができた。
- ・・・

【課題と今後の展望】※今後、取り組みたい内容などでも結構です

- ・・・・・・・・・・
- ・・・・・・・・・・

* 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所 属 * * * * 学部

* * * * 学科

氏 名 ○○○○○

作成日 2025 年○月○日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。
大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

私は地域文化政策を専攻し、その視点に立って観光学に関わる科目を担当しています。また、本学と包括連携協定を結んでいる和歌山県湯浅町（大学のふるさと事業）のほか、大阪府泉大津市（泉大津中央商店街の文化的再生）、能登半島地震で被災した石川県穴水町（あなみず・いさざ復興ミーティング）などとの域学連携活動にも関わり、地域に根ざした観光教育に従事しています。

令和7（2025）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第1Q等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
観光学入門	専門科目（現代社会学科）	1～4年	
国際観光論	専門科目（現代社会学科）	3～4年	
地域観光論Ⅱ	専門科目（現代社会学科）	3～4年	
観光文化論Ⅰ	専門科目（現代社会学科）	2～4年	
大学入門ゼミナールⅠ	基盤教育科目（現代社会学科）	1年	
専門ゼミナールⅠ	専門科目（現代社会学科）	3年	
専門ゼミナールⅢ	専門科目（現代社会学科）	4年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
観光資源論	専門科目（現代社会学科）	1～4年	
地域観光論Ⅰ	専門科目（現代社会学科）	2～4年	
観光文化論Ⅱ	専門科目（現代社会学科）	3～4年	
導入ゼミナールⅡ	専門科目（現代社会学科）	2年	
専門ゼミナールⅡ	専門科目（現代社会学科）	3年	
専門ゼミナールⅣ	専門科目（現代社会学科）	4年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

2. 理念

先行きが不透明な現代社会にあって、自分で課題を見つけ、問いを立て、答えを導き出すことが求められています。そのためには、自分で情報を収集し、それらを検証しながら新たに知識を生み出す能力が重要になります。私が専攻している観光学は、比較的若い学際領域の学問であることもあり、学生に教えるというよりも、皆で問いを共有しつつ学んでいくという授業を心がけています。とくに、ゼミナールでは域学連携活動に取り組んでいますが、地域の現場で学生たちの学習成果を報告し、関係者との情報交換や他大学の学生との学術的交流を図る機会を設けています。

現代社会学科のディプロマ・ポリシーとの関係では、講義系の専門科目の力点はDP1-2に対応し、観光分野での「専門的な知識の修得」とし、ゼミナールのそれはDP3-1「主体的に行動しながら自己管理ができ、チームワークを重視し、社会で信頼され活躍できる人間力とリーダーシップを有している」に対応し、自ら考えて行動できる力においています。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

* 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。

* 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

記載例)

教育方針 1 時間を守ること（社会人基礎力）

工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。

工夫②：・・・

教育方針 2 自宅外学習習慣（予復習）を身につける

工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。

工夫②：予復習が習慣化するよう毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

教育方針 3 学習のアウトカムの出す

工夫①：・・・

工夫②：・・・

4. 成果と課題、今後の計画

* 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。

- * 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

- 自走的・継続的英語学習と資格取得等（TOEIC、英検等）に繋げることができた
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（プロジェクト演習、英語スピーチコンテストなど）
- 英語学習と成果に関するデータを分析することができた。
- 英語カリキュラムに共通要素を取り入れることができた。
- ・・・

【課題と今後の展望】※今後、取り組みたい内容などでも結構です

- ・・・・・・・・・・
- ・・・・・・・・・・

- * 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所 属 現代社会学部

現代社会学科

氏 名 古谷 昌重

作成日 2025 年 6 月 12 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。

大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

- * ここは教育活動について何をやっているかの概略を示します。
- * 本学において、現在または過去数年間に担当した科目（科目名、必修 or 選択、学年等）と教育活動（ゼミ・CA 担当、学科等での役割など）を列記します。
※今回は初回であるため、今年度担当分について記載してください。
- * 果たしている自身の教育上の責務について記述します。

令和 7（2025）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第 1 Q 等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
観光地理Ⅰ（国内）	専門教育科目（観光分野）	1～4 年	
観光資格研究Ⅰ	専門教育科目（観光分野）	2～4 年	第 1 Q
旅行会社実務Ⅰ	専門教育科目（観光分野）	1～4 年	第 2 Q
観光資格研究Ⅱ	専門教育科目（観光分野）	2～4 年	
導入ゼミナールⅠ	専門教育科目（専門演習分野）	2 年	
専門ゼミナールⅠ	専門教育科目（専門演習分野）	3 年	
専門ゼミナールⅢ	専門教育科目（専門演習分野）	4 年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
観光地理Ⅱ（海外）	専門教育科目（観光分野）	2～4 年	
旅行会社実務Ⅱ	専門教育科目（観光分野）	3 年	
大学入門ゼミナールⅡ	基盤教育科目（大学導入分野）	1 年	
専門ゼミナールⅡ	専門教育科目（専門演習分野）	3 年	
専門ゼミナールⅣ	専門教育科目（専門演習分野）	4 年	
プロジェクト演習	共通専門科目（共通専門①）	1～4 年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

2. 理念

- * 自身の教育に対する理念（教育者としての自覚、大切にしていること、学生への期待や思いなど）を記述します。
- * 建学の精神、教育上の使命・目的、3つのポリシー（特にディプロマ・ポリシー）を踏まえてご記載ください。

5～10行以内でご記載ください

大学への進学は、学生にとって人生の大きな転機であり、大学での学びが自身の興味・関心を深め、友人や地域、社会との関わりを通じて互いに学び合う貴重な場であることに気づいてもらいたいと考えています。そのため、自己肯定感と自信を持ってもらえるような授業作りを心がけています。また、特に専門科目においては、学生が自ら調べ、考え、まとめ、発表し、その成果を振り返るプロセスを経験できるような教育を目指しています。このような自律的な学びの体験を通して、学生が社会人としての責任を自覚し、社会に貢献できる人材へと成長することを期待しています。これらの理念に基づき、学生が学問的な知識だけでなく、人間性や健康面でのバランスを重視し、地域や国際社会で活躍できるような総合的な能力を養うことを目指しています。国際的な視野を持ち、他者と協調しながら社会に貢献できる人材の育成を重視しています。（特に DP1-1、DP3-1～3、DP4-1 に該当）

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

- * 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。
- * 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

記載例)

教育方針 1 時間を守ること（社会人基礎力）

工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。

工夫②：・・・

教育方針 2 自宅外学習習慣（予復習）を身につける

工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。

工夫②：予復習が習慣化するよう毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

教育方針 3 学習のアウトカムの出す

工夫①：・・・

工夫②：・・・

4. 成果と課題、今後の計画

- * 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- * 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

- 自走的・継続的英語学習と資格取得等（TOEIC、英検等）に繋げることができた
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（プロジェクト演習、英語スピーチコンテストなど）
- 英語学習と成果に関するデータを分析することができた。
- 英語カリキュラムに共通要素を取り入れることができた。
- ・・・

【課題と今後の展望】※今後、取り組みたい内容などでも結構です

- ・・・・・・・・・・
- ・・・・・・・・・・

- * 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所 属 現代社会学部

現代社会学科

氏 名 宮竹 愛子

作成日 2025 年 6 月 6 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。

大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

(1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。

(2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。

(3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

- * ここは教育活動について何をやっているかの概略を示します。
- * 本学において、現在または過去数年間に担当した科目（科目名、必修 or 選択、学年等）と教育活動（ゼミ・CA 担当、学科等での役割など）を列記します。
※今回は初回であるため、今年度担当分について記載してください。
- * 果たしている自身の教育上の責務について記述します。

令和 7（2025）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

記載例）

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第 1 Q 等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
大学入門ゼミナールⅠ	専門科目	1 年	
専門ゼミナールⅠ	専門科目	2 年	
専門ゼミナールⅢ	専門科目	4 年	
専門英語Ⅰ	専門科目	2～4 年	
Communicative EnglishⅡA	専門科目	2～4 年	
現代社会学特別講義 A / アジア文化論	専門科目	2～4 年	
国際文化研究 A	専門科目	2～4 年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
導入ゼミナールⅡ	専門科目	2 年	
専門ゼミナールⅡ	専門科目	3 年	
専門ゼミナールⅣ	専門科目	4 年	
Communicative EnglishⅠB	専門科目	2～4 年	
専門英語Ⅲ	専門科目	3～4 年	
異文化コミュニケーション入門	専門科目	1～4 年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

2. 理念

- * 自身の教育に対する理念（教育者としての自覚、大切にしていること、学生への期待や思いなど）を記述します。
- * 建学の精神、教育上の使命・目的、3つのポリシー（特にディプロマ・ポリシー）を踏まえてご記載ください。

5～10行以内でご記載ください

学生一人ひとりが「かけがえのない存在」として、多角的でユニークな視点で物事を考え、社会に存在する問題や課題にみずから積極的に取り組めることを教育目標として掲げている。そのために、授業ではアクティブラーニングを採り入れ、かつ反転授業が有効になるような指導を心がけている。授業では、学生が楽しみながら問題意識を掲げ学習を継続できるよう、講義で取り扱うテーマを工夫している。現代社会に基づく身近な内容が主であり、近年はSDGsに関連する内容が多い。

すべての講義において、「チームワーク」や「リーダーシップ」を養うことを目標にすることで、卒業後は「実践的な職業人」として「主体的に行動」し、「統合的な学修経験」と「創造的思考力」を基に「問題解決力」「創造的思考力」を修得できる Only Ones を育てることを目指している。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

- * 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。
- * 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

教育方針1 「DP1-1（多様性への理解）人間、社会、文化、地域の多様性についての基本知識を修得し、幅広い視野と柔軟な感性で「もの」「こと」を受けとめ、理解する力」の修得を踏まえ、現代社会の課題を自身のこととしてとらえ、自身のことばで説明することができ、解決方法を生み出す能力を養う。

工夫① 講義内容に、時事ニュースを取り入れる。

工夫② ニュースの理解をディスカッションを通して深める。

教育方針2

「DP2-1（基本リテラシー）自分の考えを的確に表現するための日本語運用能力、基礎的なICT活用力、数的思考力、外国語運用能力などの基本リテラシー」の修得を踏まえ、日本語および外国語運用能力、ICT、数的思考力など総合的な知識を通して、現代社会の課題を多角的な視点から考察する能力を養う。

工夫① ブレインストーミングやマインドマッピングなどを通して、自身の潜在能力を十分に引き出す。

工夫② 反転学習を通して、予習内容を講義内容に反映する。

教育方針3

「DP4-1（課題解決力）学内外の能動的学修経験を通して、課題を発見する力、課題解決のために必要な情報を収集し分析する力、課題解決に向けた行動力」の修得を踏まえ、現代社会が抱える課題解決のために、自己の最善の能力を駆使して収集する情報の正誤を見極め、課題解決のために実社会で行動できる力を養う。

工夫① ニュースや歴史を正しく知り、自身の考えを根拠や理由とともに述べられるよう理解の深掘りに努める。

工夫② 行動力はもとより、洞察力、創造力、思考力、課題遂行力を育むことのできるグループワークを課し、どの講義にもアクティブラーニングを取り入れる。

4. 成果と課題、今後の計画

- * 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- * 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

学生は、反転学習を通して自主的に学び、その内容を講義内でクラスメートと共有することで、独自の考えにプラスアルファを加えた考え方やスキルを修得する。

【課題と今後の展望】※今後、取り組みたい内容などでも結構です

学生間の知識の差を考慮し、一人ひとりの学習能力に合わせた指導を心がける。

- * 表紙を含め、全体として、3～5ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。